草加八潮地域連携呼吸器研究会(SYRC-R:シルク・アール)

事務局：草加八潮医師会

〒340-0018 草加市中央1-5-22
TEL 048-928-8760
FAX 048-924-7180

代表世話人：高木　寛
（高木クリニック）
世話人：加藤　貴紀
（かとうファミリークリニック）
平田　大介
（平田クリニック）
新　謙一
（草加市立病院・東京医科歯科大学臨床准教授）
看護・介護部門世話人
花木　美穂子
（わーくわっく草加）
巣鴨　義夫
（一正堂薬局第二支店）
村瀬　妙子
（訪問看護ステーション氷川）
新　智美
（草加市立病院看護部）
浅古　裕康
（草加市立病院地域医療連携室）
会報著作制作：新　謙一
（草加市立病院・東京医科歯科大学臨床准教授）

シルク・アール：質の高い滑らかな地域連携に！

草加八潮地域連携呼吸器研究会（英名：Soka-Yashio Regional Conference of Respiratory Disease）は頭文字をとりSYRC-Rと表記し、「シルク・アール」と発音します。絹（シルク）の様に質の高い滑らかな連携がある（アール）ことを目指しての語呂合わせのネーミングです。
名前負けしないように継続発展させていきたいと考えています。
皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

草加八潮の周辺地域からのご参加も歓迎致します

本日の折込資料はインターネットでもダウンロードできます。

ひとめでわかる慢性気管支炎・肺気腫（下記サイトの「品切れ中のパンフレット」をクリック）
http://www.erca.go.jp/asthma2/pamphlet/index.php
鳥インフルエンザ流行マップ
http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/index.html
咳エチケットのポスター
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/pdf/01c.pdf

草加市立病院呼吸器科は紹介予約制

草加市立病院呼吸器専門外来は紹介予約制を原則としています。COPDや肺癌を始め、気管支喘息、肺炎など多彩な疾患を診療しています。事前に当院にある資料を準備し外来前日にカルテを予習して、複雑な管理を要し疾患が進行した患者さんや紹介患者さんへの質の高い診療を心がけています。その為お一人お一人にかなりの時間がかかります。
患者さんには、ご地元の先生（クリニック・診療所など）に先に受診してご相談いただき、必要に応じて地域医療連携室を介してのご予約（事前資料準備の為）をして頂くようにお願いしております。
当科受診時は紹介元の先生からの紹介状・レントゲンなどのほかに、患者ご自身がお持ちのお薬手帳や過去の健康診断の結果などもご持参頂けると大変参考になります。
症状によっては優先診療や隔離診療もしますので、紹介時に内科系外来（時間外は救急外来）または地域医療連携室までお問い合わせ下さい（TEL048-946-2200代表）。
なお、当科の患者さんでも安定している症例では、健康診査やワクチンなど予防医療を実地医家の先生にお願いしています。

外来前日にカルテを「予習」して診察しています

草加八潮地域連携呼吸器研究会（SYRC-R）

ハイライト：

大腿骨頚部骨折術後の地域連携クリニカルパスに保険点数が算定され、脳血管障害でも08改定で算定されるという。しかし、COPDの地域連携は全国的に珍しく、我々の医療はその先駆けとして評価を世に問う必要があり学会報告をした。

通常のインフルエンザの流行が各地で始まっているが、地域全体で管理を向上させることは重要である。更に新型インフルエンザ流行時には地域連携と情報の共有こそが被害を最小限に抑えるキーワードである。

目次：

代表世話人ごあいさつ	p1
全国的インフルエンザデータベースに参加	p1
第17回日本呼吸ケアリハビリテーション学会報告	p2
07/08インフルエンザシーズンの対策	p3
MLインフルエンザ流行前線情報DBのご案内	p3
草加市立病院呼吸器科より	p4
ひとめでわかる慢性気管支炎・肺気腫 鳥インフルエンザ流行マップ 咳エチケットのポスター	折込

高木　寛
高木クリニック
草加八潮医師会学術担当理事
SYRC-R代表世話人

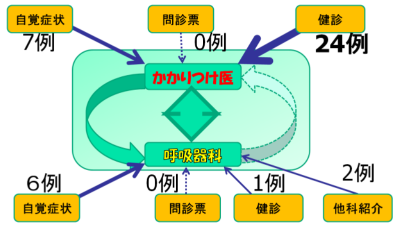
草加八潮呼吸器研究会（ＳＹＲＣ－Ｒ：シルク・アール）は、当地区の地域連携を密にすることで、患者さんが不安なく地域の診療所と草加市立病院とを必要に応じて受診し、効率の良い質の高い医療を受けられるように、医師会の後援のもと、草加市立病院の尽力によりつくられました。
6月の第１回研究会は、高齢化の進むなかでＣＯＰＤ（肺気腫）の早期発見の重要性を検討し、市立病院呼吸器科の指導により、全国に先がけたＣＯＰＤの早期発見の地域連携システムを作りました。すでに多数のＣＯＰＤが発見され、早期の患者さんの禁煙指導などに効果を上げつつあります。また介護施設からも多数の参加があり慢性疾患の呼吸管理法などについて検討が行われました。
第2回の今回は、早くもＣＯＰＤの地域連携の成果が学会で報告されましたので皆さんにご紹介させていただきます。また、今冬はインフルエンザの流行が記憶にないほど早まっている状況で、域内の医療機関でもA型陽性例が散見され本格流行は間近です。インフルエンザ対策を東京都のＳＡＲＳ現場対策の実績がある新先生が自作のビデオを供覧しながらわかりやすくご案内いたします。更に当地域のインフルエンザ発生状況を草加市立病院呼吸器科と有志医療機関が共同で情報を収集し全国データベースに反映させて、地域の先生方にもインターネットで情報を共有するシステムをご紹介します。
この研究会が、当地区の地域連携の要となり、地域医療の更なる向上が実現されますよう、多数の皆様のご協力とご参加をお願いいたします。

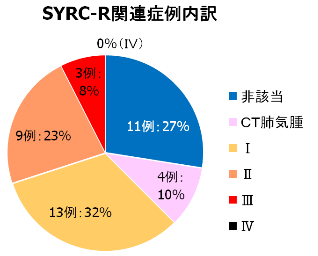
全国的インフルエンザデータベースに参加して地域の情報を共有

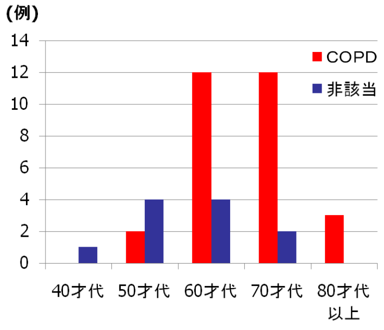
今年は全国的にインフルエンザの流行が過去に例がないほど早いことが日本各地から報告されています。埼玉県では10月下旬から局地的に流行を認め学級閉鎖を行ったところもあります。
実地医家の先生方が構築したインフルエンザの全国的データベースは国が行うものよりも流行を鋭敏に早く感知して今日の診療に直接役立つものです。ＳＹＲＣ-Ｒでは今シーズンから一部有志でこのシステムに参加して情報を登録し、草加市の流行状況をいつでも誰でも皆さんのコンピューターから閲覧できるようにします。初期診療を担う地域の先生方に、当該地域の流行状況が伝聞ではなく数字として認識していただけることは一歩進んだ地域連携と言えるでしょう。
今冬も重症化したり判断に困る症例は草加市立病院呼吸器科がバックアップします。かかりつけ主治医からの要請に関しては急性期の入院に関しても従来通り極力対応します。

ＣＯＰＤ地域連携クリニカルパスを契機に新規悪性腫瘍２例を発見

SYRC-R設立した2007年6月から10月の取組みを第17回呼吸ケア・リハビリテーション学会に報告しました。短期間に40例の検討ができたのはご参加頂いた皆様のご協力の賜物です。来年へ向けて引き続きよろしくお願いします。







肺癌検診からのCOPD抽出が最多

毎年夏に実施される草加市肺癌検診は、草加市市内の地域医療機関に住民が受診して胸部レントゲンを撮影し、東京医科歯科大学、獨協医科大学越谷病院、そして草加市立病院の呼吸器専門の医師が二重読影して肺癌の早期発見を目的に行われている行政サービスです。

今年は肺癌だけでなく喫煙という同じ危険因子で生じるCOPDをなるべく早期に発見し、禁煙を始めとする適切な指導を専門医療機関が行う方向で皆様にご協力いただきました。

例年18,000名程度が受診する検診で悪性腫瘍の発見は2006年が6例でした。今年は現在集計中ですが、肺癌検診から24例が胸部レントゲンでCOPDが疑われて草加市立病院呼吸器科を受診しました。「痰がでる」「階段で息切れがする」など自覚症状での受診も地域から7例、草加市立病院を直接受診が6例ありました。期待していたIPAGからの症例抽出は残念ながら0例で、問診票の普及には時間が必要であると感じました。介護系の方には、まずご自分の身内の方でIPAG問診票を実施してみてはいかがでしょうか？

SYRC-Rの初期検討を報告したのは、草加市立病院外来看護師兼呼吸療法認定士の新智美氏。

対象40例中の2例に新規悪性腫瘍を発見

肺癌と胃癌は悪性腫瘍の死亡原因の第１、２位になっています。今回私達が検討した40例中に2例の新規悪性腫瘍（肺癌と胃癌が各1例）を発見しました。

従来から癌の治療中の方や過去に癌の治療歴がある方も含めて、全ての方がCOPD群29例の中に含まれ、「喫煙」が多彩な癌の原因になっていることを改めて実感しました。

同時に今後COPD群から多彩な癌が発症する可能性が懸念され、SYRC-Rでは2回目以降の病院評価プログラムに任意選択の形で低線量CT撮影をご用意しており、被爆リスクを抑えつつ早期発見をしていく低線量CTを組み合わせた私達のシステムの有用性が発揮される可能性を感じました。

また、COPDになってなくても喫煙している方は多いので、禁煙指導を地域ぐるみで推進していく第一歩として、検診で喫煙指数の多い方（ブリンクマンインデックス300以上）の生活指導はとても重要と考えました。

今後は地域の検診受診率を更に向上させて、地域の方々にも良さを実感して頂けるように周知させていく努力をすることも課題でしょう。

インフルエンザ特集

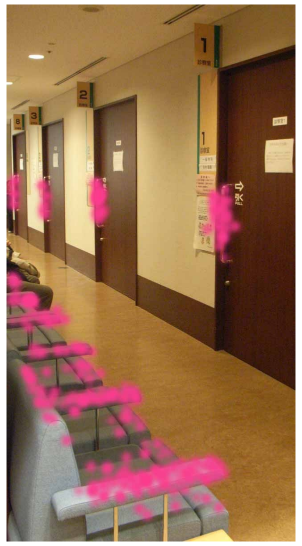
インフルエンザ対策は家族全員のワクチン接種から

皆さんの施設では高齢者を中心にインフルエンザワクチンの接種がかなりお進みかと思います。ワクチンはインフルエンザ対策として最も効果の大きい手法ですが「ワクチンを接種したのにインフルエンザになってしまった」ような経験はありませんか？

実はワクチンの効果は発症してからの重症化阻止に大きな効果があり、発症させないためには＋α の色々なコツが必要です。

その一つが、「家族全員」のワクチン接種です。ワクチンを接種しても家族が罹患して大量のウィルスを撒き散らせば、感染してしまいます。家族全体で防御する姿勢が重要です。

正しいマスク装着と手洗いの励行も


医療機関では患者さんがよく触る所はウィルスも多く付着している

家族にはワクチンを要請できますが、施設や職場ではそうもいきません。そんな時はシーズン中に適切なマスクを常用することです。サージカルマスクは最も適切なマスクですが，実は装着にはいくつかのポイントがあります。皆さん、針金を鼻と頬の形に合せて曲げてますか？プリーツは顎の下まで伸ばしてますか？

インフルエンザは接触感染も重要な要素です。診察時だけでなく、ドアノブや手すりなどを介して伝播します。速乾性アルコール消毒剤は短時間に清潔度を増すことができる便利なアイテムです。医療機関ではグルコン酸クロルヘキシジン入りアルコール製剤がお勧めです。介護施設では医薬部外品でもいいでしょう。

左：草加市立病院で採用しているグルコン酸クロルヘキシジン0.2w/v%を含有する無色のアルコールジェル(医薬品)
右：最近市販されているアルコールジェル（グルコン酸クロルヘキシジンは含まず：医薬部外品）

今シーズンのインフルエンザの流行は記憶にないほど早い。インフルエンザは家庭内・施設内・地域内の伝播が強く、診療には個々の患者さんの治療に加えて感染対策の要素が大きい。

感染対策のコツがいくつかあるが、咳エチケットは最近ようやく一般にも浸透しつつある概念だ。施設内に咳をしながらマスクをしない方がいる時、違う症状で来ている患者さんや利用者さんは必ず不快感を感じている。外来受付段階での対応が、自施設の好感度を高めて職員を守ることにもなる。

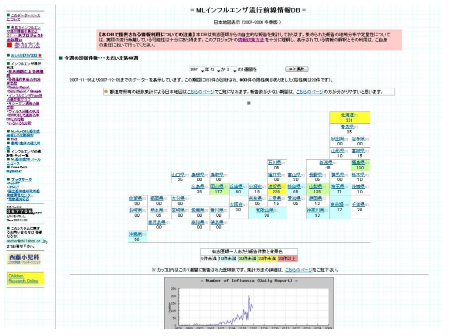
鳥インフルエンザ(H5N1)の世界各地での発生は新型インフルエンザによるパンデミックの前兆である。昨シーズン私達はジャカルタからの輸入インフルエンザを経験した。幸いH5N1ではなかったが、添付の鳥インフルエンザ分布地図を参考に海外渡航歴を常に問診することは危機管理上重要である。

草加地域のインフルエンザ流行状況をネットで公開

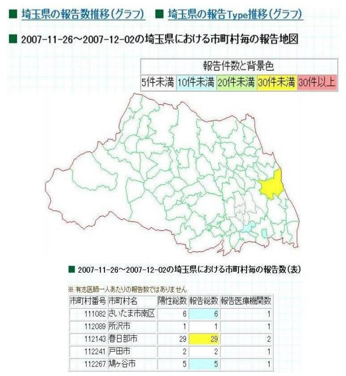
昨シーズンに草加市立病院では15歳以上の急性気道感染症患者を対象としたサーベイランスを実施しました。海外からの輸入感染症を早期に検出し、受付段階で患者さんをトリアージしてマスクを装着させ、インフルエンザの流行時の当院受診患者の動態を知るためです。

その成果としてジャカルタからの輸入インフルエンザに初期から適切に対応でき、インフルエンザの流行も鋭敏に検知できました。

今シーズンは地域有志医療機関と協力してインフルエンザ流行状況を把握してインフルエンザデータベースに反映させます。



http://ml-flu.children.jp/
MLインフルエンザ流行前線情報DB



市町村番号	市町村名	陽性総数	報告総数	報告医療機関数
111082	さいたま市南区	6	6	1
112089	所沢市	1	1	1
112143	春日部市	29	29	2
112241	戸田市	2	2	1
112267	鳩ケ谷市	5	5	1

左画面の埼玉県をクリックすると県内の情報表示